

## 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク実行計画について

市民協働環境部環境課

## 1 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークについて

## (1) ジオパークの目的

ジオパークは、「地形、地質から地球の過去を知り、未来を考えて活動する場所」であり、南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークでは、これらの地域遺産を保全し、教育、学習資源としての活用及び観光資源と連携したジオツーリズムにより、地域振興に寄与することを目的としています。

## (2) ジオパークのエリア

伊那市高遠町及び伊那市長谷、大鹿村の全域並びに飯田市の上村及び南信濃の区域がジオパークのエリアです。そこにある南アルプスの3,000m級のどっしりとした山々と、南北にまっすぐ貫く中央構造線の深い谷が当ジオパークの最大の魅力です。これらの特徴的な地形、地質、そしてそこから生まれた生態系、文化等を教育、観光の資源として取組を行います。

## 2 ジオパークの基本計画

南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークの目的のために、取組の主体である南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会が定めた基本となる計画で、「保護・保全」「研究・教育」「地域振興」を活動の3本の柱とし、次のことを定めています。

- (1) 目的、計画期間（現在の計画では2018年度から2025年度までの8年間）及びエリアといった基本的な事項
- (2) 8項目の活動計画 ①保護保全について②研究教育について③地域振興について④情報発信について⑤リスクマネジメントについて⑥持続可能な発展への寄与について⑦ネットワーク活動について⑧ジオパークとエコパークの活動の両立について
- (3) 推進体制

## 3 ジオパークの実行計画

基本計画に定めた事項について、具体的な活動内容を定めるものです。

第1章から第3章までで構成されており、それぞれ次のような内容（概要）となっています。

## 第1章 実行計画の策定に当たって

- 1 実行計画の目的  
基本計画で掲げた目的を実現するため、この実行計画では具体的に行う活動の内容を示します。
- 2 計画の期間  
計画の期間は、2023年度から2025年度までの基本計画の残りの3年間です。3年間の実行計画を推進し、その取組成果をもって2026年の再認定審査に臨みます。
- 3 ジオパークの実行計画の進捗管理と評価  
事務局で進捗管理を行い、各年度末に進捗状況を幹事会に報告し、実行できたか否かの確認を受け、次年度以後における優先順位の見直し等を行っていきます。

## 第2章 実行していくこと（3か年） 基本計画の8項目に沿って定めています。

※アンダーラインは飯田市として特に実行していく事項

## 1 保護・保全活動について

- (1) ジオサイトの範囲を確定し、保全の方法及び体制を確立します。
- (2) 国や県、またリニア中央新幹線や三遠南信自動車道の工事に関係する事業者等との地質遺産の保護保全に係る協議又は調整を行います。
- (3) 遠山郷エリアで展開されているエコ登山の実践の拡大、ジオパークとしての啓発を行います。
- (4) 霜月祭りなど伝統的な民族芸能の継承の支援及び重要性の発信を行います。

**2 研究・教育について**

- (1) 小中学生向け及び一般向けに分かりやすい内容の教材の作成の検討を進めます。
- (2) 「遠山郷エコジオフィールドスタディ」など高校・大学の研究活動を支援します。

**3 地域振興について（ツーリズムの推進）**

- (1) ガイドの育成及び活用により、ガイドが活躍するジオツーリズムの充実を図ります。
- (2) ガイドとの連携により、南アルプスジオパークを市民が現地体験できる企画を積極的に実施します。

**4 情報発信について**

- (1) 最新のエリア、サイト、ストーリーを反映した公式パンフレットの更新を行います。
- (2) 新たに、「フォトコンテスト」を開催し、認知度を向上させます。
- (3) ジオパークとは何か、どんなところが伝わるチラシを発行します。
- (4) 講演会、講座等を開催し、地域住民に向けてジオパークの発信を行っていきます。

**5 リスクマネジメントについて**

エリア内において必要な通行規制や復旧の措置を講じ、安全に見学できるように努めていきます。

**6 持続可能な発展への寄与について**

気候変動への対応、自然災害の記憶の伝承等ジオパークができることを実践します。

**7 ネットワーク活動について**

- (1) 他のジオパークや様々な団体とのネットワークを築き、南アルプスジオパーク活動を推進します。
- (2) 地域の自治組織等を巻き込み、地元の皆さんと一緒にジオパークの活動を推進します。

**8 ジオパークとユネスコエコパークの活動の両立について**

エリアが重複している「南アルプスユネスコエコパーク」との情報交換、共同事業を実施します。

**第3章 実行のための推進体制****1 協議会の運営組織と運営方針**

地域の住民や団体からなる組織であるジオパーク協議会によって、実行計画を推進します。

**2 総会・幹事会・部会・事務局の役割**

総会、毎月の幹事会、観光・学術・教育の3部会と事務局が協力しあって推進します。

**3 財政計画**

構成市町村の負担金のほか、クラウドファンディング等による幅広い資金の調達を検討します。

**4 拠点施設・各施設**

飯田市美術博物館、遠山郷郷土館、しらびそ高原天の川などその他伊那市及び大鹿村の各拠点と連携した活動を行っていきます。

**4 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク実行計画に係る飯田市としての取組****(1) 事務局体制**

強化した体制で、積極的に事務局の一翼を担います。

※令和3年度までの3人体制（環境課2人、観光課1人）から、令和4年度以降は4人体制（環境課3人、遠山郷観光振興室1人）としています。

**(2) 構成市村との連携**

事務局会議等により、伊那市及び大鹿村との連携を強化します。

**(3) 当市での独自事業**

ア ジオパークとは何かということ及び南アルプスと遠山郷の極めて貴重な自然と文化について、認知度が上がるようチラシの配布、テレビ広報その他の広報を実施します。

イ 南アルプスと遠山郷を現地体験できる講座を実施します。

また、伊那・大鹿エリアも体験できる講座を実施します。